

tamtam

2020.11

VOL.

07

P1 [特集]丹波市市民プラザ
開設1周年を振り返るP2 [特集]市民プラザ1年の歩み
「みんなでつくり、育てる」市民プラザP3 隣の自治協さん「芦田自治振興会」
丹波市民、学びの窓「空き家の現状とこれから」P4 繋ぐ!市民活動「水上郷土史研究会」
活動事業者紹介「大伸観光」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

丹波市市民プラザ
開設1周年を振り返る

来館者1万人記念セレモニー

丹波市市民活動支援センターのある丹波市市民プラザは昨年10月22日にオープンし、1年が経ちました。プレイルームで遊ぶママパパと子ども、本を広げて勉強する高校生、会議室を定期的に利用する団体、市民活動・地域づくり活動に関する相談者など、様々な方々にご利用いただけてきました。

新型コロナウイルスの影響で一時的に閉館を経験しましたが、試行錯誤を繰り返しながらも「みんなでつくり、育てる」場所を目指し、工夫しながら運営してきました。今年8月には来館者数1万人を超え、来館者へ1万人の記念品を贈呈し、来館されていた皆さんと一緒に記念写真も撮りました。

また、市民プラザを飛び出し、25地域の自治協議会や地域で活動している方々のお話を聞いて回りました。新型コロナウイルス感染拡大による影響への対応、活動の悩みや課題について一緒に考え、お応えすることで、ともに取り組んできました。新しく活動を始めた方、組織を立ち上げた方、今まで以上に活動の規模を広げたい方など、多くの地域づくりのさらなる一歩に出会ってきた1年でした。

今回の特集では、そのようなオープンから1年間の市民プラザでの出来事や歩みを振り返ります。

今回の特集では、そのようなオープンから1年間の市民プラザでの出来事や歩みを振り返ります。

今回の特集では、そのようなオープンから1年間の市民プラザでの出来事や歩みを振り返ります。



Topics 01 市民プラザ 1年間の歩み

開設1年を迎えた市民プラザは、皆さんに支えられ、参加いただき、様々な取り組みを実施することができました。この1年で実施した、市民プラザ内の各センターの主な取り組みを振り返ります。

2019年 10月	<ul style="list-style-type: none"> ★ 10/20 市民プラザ開設オープニングイベント ▲ 10/20 開設記念講演会 ★ 10/22 市民プラザ開設 	05月	<ul style="list-style-type: none"> ★ 04/10~05/26 コロナによる臨時閉館 ◇ 05月 tamtam04 発行 		
11月	<ul style="list-style-type: none"> ★ オセロ、ボードゲーム設置 ■ 11/16 パパ講座 ◇ 11月 tamtam01 発行 		06月	<ul style="list-style-type: none"> ★ 06/03 アマピエバッジ配布 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 12/04 パープルリボンワークショップ クリスマスポットづくり ● 12/14 三市連携まちづくり互近助サミット ▲ 12/15 丹波の女性 Waku×Doki 交流カフェ 	07月	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 07/04 丹波の女性応援カフェ ■ 07/09 親子講座 ◇ 07月 tamtam05 発行 		
2020年 01月	<ul style="list-style-type: none"> ● 01/11,12 書き初め大会 ■ 01/23 ヨガ体験 ◇ 01月 tamtam02 発行 		08月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 08/08 パパ講座 ★ 08/26 市民プラザ来館者1万人記念セレモニー ● 08/28 これからの自治協議会と地域づくりを考える会 ワークショップ計5回 	
02月	<ul style="list-style-type: none"> ★ 02/15 紙飛行機大会 ▲ 02/29 第一回丹波の女性応援カフェ ● 02/29 市民プラザでつくれるWEBページ説明会 	09月	<ul style="list-style-type: none"> ★ 「あなたの夢」メッセージコーナー設置 ◇ 09月 tamtam06 発行 		
03月	<ul style="list-style-type: none"> ● 03/05 講座：地域づくり活動にとっての法人格 ● 03/12 パブコメミーティング ★ ボタン付きの自動ドアへ変更 ◇ 03月 tamtam03 発行 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 10/03 FM805 たんば「ラジオ喫茶ここちか」放送開始 ★ 10/22 市民プラザ1周年 ■ 10/29 親子講座 ★ 10月 登録団体紹介特別展示開始 ● 10/31~ TAMBA 地域づくり大学2020 		
04月	<ul style="list-style-type: none"> ● 04/30~ 自治協議会、市民活動団体向け 新型コロナウイルスの影響調査 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 11月 tamtam07 発行 		

● = 市民活動支援センター ▲ = 男女共同参画センター ■ = 氷上子育て学習センター
★ = 市民プラザに参加してもらうための仕組みづくり ◇ = tamtam 発行

Topics 02 「みんなでつくり、育てる」市民プラザを目指して

市民プラザでは、来館者や利用者の皆さんが参加し、交流できるような工夫を心掛けています。例えば、来館者1人ひとりが1手ずつ進めていくボードゲームの設置や、折り紙による装飾など、誰かが始めることで人が集まり、会話のきっかけになればと取り組んでいます。プラザ内には小さな子どもたちからご年配の方まで、様々な年代の方が集まります。そこで大事になってくるのが「対話」です。

市民プラザがオープンして間もない

頃、そんな気づきを与えてくれた出来事がありました。氷上子育て学習センターに遊びにきていた小さな子どもたちが、自動ドアを抜けて施設外に走り出てしまい、何度もスタッフが探しに行くことがありました。

このままでは危ないと考え、スタッフが独自に対策を考えることもできましたが、保護者たちからも意見を聞き、その上で話し合いを行いました。最初はそれぞれ意見が食い違い、対策を立てるまで苦労の連続でした。結果、

みんなが納得する方法として、子どもたちが外へ飛び出しにくい仕切りを設け、自動ドアの一部をプッシュ式ボタンでの開くドアに変更することになりました。

お互いの意見や考え方を共有し、妥協点を話し合うことは大切。地域づくりにおいても同じことが言えます。市民プラザでは来館者の意見を反映させながら、ゆっくりでも問題を解決していくことを心がけています。

隣りの自治会の さん協の

TONARI no
JICHIKYO san

芦田自治振興会

地域の良さを大切に、未来へつないでいく

芦田自治振興会は青垣地域の南部、人口約1,600人、約650世帯の旧芦田小学校区にあります。自治会が5つだけであることを活かしながら、「みんなで創る元気あした村」をスローガンにして地域づくり活動をしています。豊かな田園が広がり、北近畿豊岡自動車道のICを中心に道の駅あおがき、総合運動公園グリーベル青垣、丹波少年自然の家、俳人細見綾子氏の生家などもあることから地域外からの来訪者も多い地域です。

昨今、急激な人口減少、少子高齢化、さらには小学校の統廃合の影響を受け、地域の活力向上、コミュニティ再構築が課題となっています。そのような中で、地域内の名所をピックアップした「芦田絵図芦田の五十三次」を作成するなど「ふれあいと未来へつなぐ(ペイ・フォワード)元気な芦田」を目指しています。

地域から大きな期待を集める地域づくり委員会

地域づくり委員会は各自治会から2名の委員をもって、地域の様々な事業やイベントについて、横断的に意見を出し合い、企画立案をしています。委員は30～50歳代を中心に、半数が女性で、若者や女性の意見が活動に反映されるよう工夫しています。

11月8日に開催した「第8回芦田ふれあい祭」も地域づくり委員会が中心となり、新型コロナウイルスの影響を考慮しつつ、“できる方法を考えよう！”と知恵を絞りました。感染予防対策や老若男女が楽しめる企画、発表機会がなくなっていた中学・高校の吹奏楽部による演奏会などを協力して実施しました。子どもの声が聞こえなくなった旧芦田小学校の校舎やグラウンド、中庭など大きな会場にたくさんの住民を呼ぶことができました。

環境の変化が大きな時代だからこそ、住民同士が支え合い、ふれあう活力のある地域を目指そうと活動を進めています。



地域づくり委員会 会議中



芦田ふれあい祭

丹波市民、学びの窓

丹波市の空き家の現状とこれから

所有者・相続人・隣近所など、それぞれの立場で様々な悩みや困り事になっている空き家。そもそも空き家はなぜ発生するのでしょうか。理由はシンプル。その地域の世帯数よりも住宅数が多いからです。「住宅・土地統計調査(以下、統計)」によると、日本では昭和48年頃にはすでに世帯数を住宅数の上回っており、50年前から空き家が存在し、何もしなければ増え続けることが予想できていたのです。

統計によると平成30年の丹波市内の住宅数は26,680戸で、うち空き家(統計の定義による)は4,470戸(空き家率16.8%)となっていますが、最近になって劇的に増えているわけではありません(図①)。では、なぜ最

近「空き家が増えた」という声が目立つようになったのでしょうか。1つは「危ない、問題になりそうな空き家」が目につく、気づくようになったからだと考えられます。実際、統計によると、日常生活で言われる「空き家」に該当する「その他の住宅(使用予定がない・放置されている・放置される可能性が高い)」が増え続けていることがわかります(図②)。また、平成26年公布の「空家特措法」もあって、行政や事業者、NPO等による空き家に対する取り組みが目立つようになってきたことも背景にあると考えられます。

日本では住宅・土地は私財であり、空き家は個人の問題という認識が強いですが、同時に近隣や地域にも影響を

与える地域の財でもあり、今後さらに増加することが懸念されます。「将来、この家をどうしようか」とあらかじめ家族や専門家と相談、準備をすることがますます重要になっているのではないでしょうか。



図①



図②



繋ぐ!市民活動

氷上郷土史研究会

戦後に発足した氷上郷土史研究会では、60～70歳代を中心に101名の会員が地域の身近な歴史に親しみながら、会員同士の交流を続けています。年7回の例会や市内外の歴史めぐり、会誌の発行、市民向けの講演会などを実施しています。最近では、古文書部会や山城部会という専門部会を設けたり、他の歴史研究会と連携したりするなど、活動の幅も広がっています。

10月28日の主催事業では、柏原歴史の会にガイドを依頼し、一般参加と会員の約50名が柏原の市街地を散策しました。参加された皆さんは、普段は何気なく通り過ぎる街並みですが、歴史の重みを感じながらガイドの話に聞き入っていました。

また、古文書部会では、処分予定だった円通寺の古襖の下張りから見つかった近世・近代の古文書や古資料を、神戸大学地域連携推進室の協力も得て、写真撮影やスケッチを繰り返し、切れ端1枚でも保存しながらデータベース化する作業を進めています。

会長の足立義昭さんは、「活動は会員の健康づくりやスローライフにも役立っている」と話します。円通寺以外にも市内にはたくさんの古文書が存在することから、会員で分担して保存に取り組むための1人ひとりの技術向上や、市内からの古資料相談への対応が今後の課題となっています。



柏原まちなかに歴史を探る



会誌「氷上(ひかみ)」



活動事業者紹介

有限会社大伸観光

有限会社大伸観光は1987年に創業し、貸切バスの運行で系列の大伸急行とともに観光・物流に貢献しています。新型コロナウイルスによる休校で夏休みが短縮された今年の7・8月、真夏に通学する小学生のために、無償で送迎バスを走らせ、ニュースでも取り上げられました。

送迎バス運行のきっかけは、北小学校に不足していたマスクを寄贈したことでした。小学校と関わる中で校長から、児童の送迎バス費用の問い合わせがあり、「それならば、無償ですぐに始めよう」と運行を決めました。急な呼びかけに応じてくれた丸茂観光バスと大垣観光バスとともに、北小学校と和田小学校の遠距離通学の児童を送迎しました。

活動を知った丹波警察署は安全運行のための見守りで協力し、さらには運動場や通学路の整備を行う企業や住民などの活動へ輪が広がりました。これを機会に知り合った有志が『丹波向上委員会』を立ち上げ、子ども園児の枝豆収穫体験や、廃校になった小学校のグラウンド整備など新たな活動を始めています。

大伸観光の北野有作さんは、「協力してくれる人がいるから活動できる。これからは子どもだけでなくお年寄りの困っていることもメンバーで解決できたらと相談している。」と話され、さらにメンバーの専門分野や特技を活かして活動していこうとされています。



大伸観光事務所外観



小学生からのお礼の手紙



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内

TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00～18:00(会議室は21:30まで) / 休館 毎週月曜日・12月29日～1月3日

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。